

平成27年度第1回  
逗子市総合計画審議会

平成27年7月21日

逗子市経営企画部企画課

## 平成27年度第1回逗子市総合計画審議会

日時：平成27年7月21日（火）19:00～21:00

場所：市役所5階 会議室

【出席者】出石会長、木村副会長、依田委員、磯部委員、森野委員、星野委員、松永委員、橋本委員、石渡委員、金山委員、稲葉委員、久保委員、岩橋委員、谷委員、渡邊委員、柳沢委員

【事務局】和田経営企画部長、芳垣経営企画部次長、福本企画課長、仁科主幹、山道主事

欠席者：1名（竹村委員）

傍聴者：1名

### 【次第】

- 1 開会
- 2 前総合計画後期実施計画の進行管理について【報告及び審議】
- 3 その他
- 4 閉会

### 【配付資料】

4月20日に送付したもの

（資料1）実施計画事業管理表（個別計画に係る懇話会等で意見聴取するもの）

（資料2）実施計画事業管理表（進行管理部会で意見聴取するもの）

（資料3）実施計画事業管理表（事業カルテ）意見提案の視点

7月16日に送付したもの

（資料4）意見一覧（進行管理部会で意見聴取）

（資料5）意見一覧（個別計画で意見聴取）

（参考1）実施計画事業管理表（個別計画に係る懇話会等で意見聴取をしたもの）に対する  
総合計画審議会委員からの意見・質問及び所管回答一覧

（参考2）進行管理に関する意見の視点について

机上で配付したもの

（参考3）実施計画事業管理表（進行管理部会で意見聴取をしたもの）に対する総合計画審議会委員からの意見・質問及び所管回答一覧

委員就任時に配付したもの

逗子市総合計画 基本計画2014

逗子市総合計画実施計画（計画期間2011年度～2014年度）

(福本企画課長) まだ竹村委員がお越しになっていないんですが、定刻となりますので始めさせていただきますと思います。

本日は大変お忙しい中、総合計画審議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。初めに、新年度になりまして、事務局のほうに異動がありましたことで、まずはご報告を申し上げます。

(和田経営企画部長) 皆様、こんばんは。この3月まで福祉部のほうにおりました和田と申します。4月からこちら、経営企画部ということで拝命いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(芳垣経営企画部次長) こんばんは。同じくこの4月から経営企画部の次長ということで拝命いたしました芳垣と申します。よろしく願いいたします。

(福本企画課長) あとはこちらにいる3名、福本、仁科、山道は変わりございません。あと、この3月までは稲井という女性の職員がもう1人いたんですが、異動ということで実は1人減になっている状況でございます。この体制で、今後もよろしく願いをしたいと思います。

では、お手元の会議次第に従いまして説明させていただきますが、本日の会議は現時点において16名の出席ということです。

総合計画審議会条例に定めます定足数に達していることから、本日の会議は成立しておりますことを、まずはご報告いたします。

続きまして、資料の確認です。

まず、次第ということで1枚。あと、7月16日付で送付いたしました、右肩に資料4と書かれている資料です。ホッチキスどめになっているかと思います。同じく右肩に資料5と書かれている資料。そして、同じく右肩に参考1と書かれている資料。同じく右肩に、これは紙を縦に使っています、参考2と書いてある1枚ものです。最後の資料ですが、右肩に参考3と書かれている、やはりホッチキスでとまった資料ということ。これらに加えて、逗子市総合計画基本計画2014、そしてその実施計画ということでございます。

不足等ございませんでしょうか。

では、ここからの進行は出石会長をお願いいたします。

(出石会長) 皆さん、こんばんは。お暑うございます。大丈夫でしょうか、皆さん。

それでは、早速始めてまいります。まず最初に、この4月に皆さんに大変ご奮闘いただきましたといいましょうか、新しい総合計画がスタートしました。ご同慶の至りなんですが、今日はその新しい総合計画ではなくて、旧総合計画というんでしょうか、その進行管理があと

残っておりますので、それを今日は進めてまいります。

それと、今日が現任期の最後の総合計画審議会になりますので、あらかじめ予告しておきますので、最後に皆さん一言ずつ感想を述べてもらいますので、考えておいてください。よろしく願いいたします。考えていただくんですが、議事についてはご発言のほどをひとつよろしく願いいたします。

それでは、早速入ってまいります。次第の2番。前総合計画後期実施計画の進行管理についてを議題といたします。

まず、こちらについて進行管理部会がございます。この進行管理部会で意見聴取したのものについて、磯部部会長のほうからご説明をお願いいたします。

(磯部委員) 進行管理部会は、今年度は5月28日と6月24日の2回で終了いたしました。これは毎回のことですけれども、観点は、各々の事業が実施計画の事業内容に沿って進められているかどうかの確認と、事業カルテに記載した目標達成状況などの自己評価が妥当かどうかという2点の確認を行いました。

さらには、今回は4年間の総括ですので、事業として「目標を達成した」のか「しなかった」のか、「その他」として、「中止になった」とか、その3つの分類で評価をいたしました。

それから、今回、まちづくり基本計画で位置づけられていた事業が14、今までは部会では進行管理していませんでしたが、今年度に限って14の事業の進行管理もあわせて行いました。その結果がまとまっているのが資料4でございます。ここには進行管理部会の中でいろいろ意見とか質問とかを出して、それに対する所管の回答というものがまとめられております。

ちょっと前後いたしまして失礼しましたが、お手元の参考2、1枚の紙ですけれども、この進行管理に関する意見をカルテに記載する、カルテに記載しない、そういった基準がここにまとめてあります。記載しないのは質問のようなもの、それから目標に対する意見、これは記載しないと。これは進行管理の範囲外ということです。カルテに記載するほうは、先ほど申しました、その確認のための話、それから自己評価に対する私どもの評価、これに関してはカルテに記載するということです。

それで、そのカルテに記載する分がお手元の資料4にまとめてあります。おおむね、私どもの意見というものは取り入れられました。ちょっと前後して申し訳ないんですけれども、4年間かなり格闘いたしました。これは何か前例のないことだったということで、私どもも手探りのところがあったんですけれども、今後の進行管理に対して明確な提案をしたいと思っております。何よりも大事なことは、事業の目標の設定に問題があると進行管理に問題が生じることで

す。

典型的な4つの問題を認識しました。1つは、目標が抽象的であったために、目標が達成されたか否かの判断に苦しんだこと。2番目は、目標を事業の一部に限っているが、その選択が事業全体をあらわす指標として不適切なもの。3番目は、目標が複数あり、その場合、評価方法が定められていなかったため、個別の目標に対する評価をどのように総合的な評価に結びつけるかということで苦しみました。4番目は、目標を数値で示している場合、多少の許容範囲というものを認めるのかどうかということに関しても、かなり苦しみました。

それで、最後に申し上げた目標の数値には届かなかったが、その事業の目的というものに鑑みただけの場合には、「目標を達成できた」、もしくは「その他」としてよいのではないかというような提案を3つの事業に関しては行いました。これは、数値目標に対してほんの少し到達してなくても所管課の判断が「達成できなかった」と、このように厳しく判断している事業です。

それからもう一つ、数値目標なんですが、予算カットなどいろいろな前提条件が大きく崩れたということが幾つかの事業ではあります。それに関して、最初に申し上げた3つの事業ではそういったことがあっても、あくまでもこれは目標に達さなかったというような厳しい判断をしています。一方、所管課自身でその状況の変化を斟酌いたしまして、目標数値には届かないにもかかわらず「目標を達成できた」とか、「その他」というような評価をした事業が4つありました。そのうち2つに関しては、私どもがやはりこれは厳しく見ている部門との間で不公平が出るから、これはやはり達成していないんだという意見を出したところ、2つの事業はそのとおりと、達成できなかったに変えますというふうな回答がありました。2つに関しては、あくまでもそうではないんだと、いいんだということで、達成したというような評価をしているものが2つあります。

その中の1つに関しては、どうしてもここで紹介させていただきたいと思います。これは数値目標ではないんですが、今回初めて部会で評価した事業で、地域公共交通充実事業という事業があります。これは、目的は地域の公共交通の拡充を目指し、まちの活性化、環境負荷の低減等を図るという目的で、手段はミニバス、コミュニティバスを中心とした地域公共交通の拡充を図るというものです。評価の基準は「ミニバス路線が拡充されている」、これが評価の基準です。

お手元の資料4の中でどのような回答があったかというのは6/10ページ。そもそも一番最初の回答が、目標の「路線が充実されている」に対して、成果が「充実に向けて検討を行った」、よって「目標を達成した」というふうな回答だったので、それはおかしいのではないかと

という質問をしたところ、右側の下のほうの四角、「地域の公共交通の充実に向けて検討を行った」という基準はやめて、「路線が充実された」、よって「目標を達成した」というように回答していますが、ここで路線が充実されたというものの実態は、ある路線において便数が増えたことです。その程度では、拡充ではないですね。さすがに「拡充」という言葉は使えなかったらしくて、「充実」という言葉で置きかえています。これを基準にして、「目標は達成された」んだというふうに言い張っています。

これは、私は今、アーデンヒルの自治会の会長をやっておりますけれども、アーデンヒルではミニバス路線を拡充してほしいということで何年も市にも協力をお願いしてやっています。そういった一般の市民が見た場合に、この公共交通の充実という事業の「目標は達成された」と言われた場合に、やはりこれは一般の市民感情としては受け入れられないのではないかと、いうことを1つ言わせていただきます。

以上で私の総論は終わりますが、そこでこの反省。反省というのは4つの目標設定に関する問題に対して明確な認識を持っていなかったことです。今回私たちでつくった新総合計画のリーディング事業に関して精査をいたしました。その結果、リーディング事業は38ありますが、先ほど説明した、問題になる可能性のある目標設定が12事業の中にありました。これは将来、進行管理をするに当たって潜在的な問題だと考えます。その多くは、先ほど申し述べた1番目の問題である目標が抽象的だということです。

ごく簡単に説明させていただきます。今日は新しいほうの総合計画は持ってこなくてもいいことになっているので、お手元にはないと思いますから、ごく簡単にご紹介します。

以下私が取り上げる目標は、8年後のものではなくて、4年後の目標です。健康づくり推進事業、「医療費の抑制が図られている」。この「抑制」という言葉に定義がありませんから、実際に医療費が今の平均より減ったら目標達成なのか、伸び率が減ったら目標達成なのか、そういったことが全く分かりません。それから地域医療充実事業、これは「連携拠点が一部設置されている」。一部というのは何なんだか全くこれは意味不明であります。それから、自然の回廊プロジェクト推進事業、「マップが作成されている」。恐らく自然の回廊のマップだったら、今でも既にあると思うんです。あるべき目標とは恐らくマップが完成するとか、マップが完成して一般に周知されているとか、そういったような目標のほうが正しいと思います。

それから、さらに、ここから非常によく出てくるキーワードがあります。それは「着手されている」という言葉です。生ごみ減量化・資源化事業。「適正規模の設備整備に着手している」。着手というのは一体何なのか。プランが完成しているのか、工事に着工しているのか、

分かりません。次に、一般廃棄物処理施設整備事業、これは「計画が策定され、一部着手されている」。「策定され」は明確で結構ですが、「一部」という言葉の一部は何を指しているのかわからない。また、「着手」は同じように何をしているのかわからない。土地利用方針の調査・検討。「方針が検討されている」。これはずっと昔に石渡委員から指摘のあった、「話をしている」、「会議をした」、「検討している」というのは成果でも何でもありません。ところがこの事業に関しては、「方針が検討されている」が4年後の目標です。それから、歩行者と自転車を優先するまち推進事業、「方法の具体的な方策が示されている」。「示されている」というのは一体何なのか。きちんとしたルールブックができているのか、それとも広報誌で何か記事が載ったのか。全く達成基準が分かりません。JR東逗子駅前用地活用事業、「合意形成が図られている」。「図られている」というのは、やはりこれは努力されていればいいのでしょうか。何をもちて合意形成とするのか明確ではありません。商工業振興事業、「進行計画の策定に着手している」です。またまた「着手している」。しかもこれは4年後の話です。4年後に「策定に着手している」というのが目標です。男女共同参画プラン推進事業、「調査研究に着手している」。またまた「着手している」。

ということで、目標が抽象的で、一体何なのかわからないという事業はやはりリーディングの中にもあります。その他は余り大した問題ではありませんが、目標が複数個ある事業が3つあります。これは今までの事業に比べると格段に減りました。多くの事業では、かなり正しく進捗状況を確認できるような目標や、いくつもある目標の中からよいものを1つだけ選び出したというような感じがいたしました。これに関しては大変に進歩していると思います。

それから、今悪いものばかり言いましたけれども、よいものもたくさんあります。「完了している」「決定している」「運用されている」、こういった明確な目標をつくっている事業も大変多くありますから、決して私は全体がだめだと言っている話ではなくて、大変に進歩はしていますが、まだ問題は残っているということを申し上げたいと思います。

私の提言といたしましては、これからまた進行管理の組織というものがつくられると思うんですけども、1年後に初めてどうなったんだと話をするのではなくて、直ちに任命された方々は、今私が申し上げた抽象的なもの、問題があるものに関しては、何が正しい評価基準なのかということを確認させていただきたい、かように考えます。

今、時間が限られていますのでここまでにしますけれども、方法論に関しては、一定の方法論を確立できたと考えておりますので、これを文書にして8月の末、9月くらいをめどにして、部会として新しい審議会に提出したい、かように考えております。

以上です。

(出石会長) ありがとうございます。

特に後半のことについては、今の新しい総合計画の実施計画、特に前半4年についての問題提起として非常に重要なものだったと思います。こちらについては今の部会長の提言のとおり、次の期のメンバーに最初に伝えて、そこからの対応になります。ここで議論するというのではないと思いますので、これは議事録に残して、それを次期の委員に伝え、そういった中で今提案があったとおり、1年終わってからの検証に使う以前に、この指標をもう一回明確にしてほしいという部会長の提言を伝えるということによろしいでしょうか。

(磯部委員) はい。結構です。

(出石会長) それでは、資料をつぶさにももちろん説明していたらこれだけで何時間もかかってしまうのでできませんが、この後期の実施計画、旧の総合計画の後期の計画についてのただいままとめていただきました意見の部分ですね。目を通されている前提になりますけれども、何かご意見等ありましたら、お願いしたいと思います。

はい、どうぞ。

(石渡委員) 進行管理部会さんのほうで事業カルテのほうに記載するというものの結果というのは、資料4のところの部分ですよ。

(磯部委員) そうです。

(石渡委員) それ以外で今回参考3として配られたこちらの内容というのは事業カルテには載らない。ただ、ここの中で見ても、ある委員さんからの質問に対して、その担当部署のところから、ある程度数値が分かりやすく、つまりこの表の部分では書き切れないような、補足的なことをちゃんと書いてあるような事業があります。そういうものに関しては載せてもいいのではないかと思うんですが、そういった議論はここでしていいですか。

(出石会長) よろしいのではないのでしょうか。

(磯部委員) 恐らく載るはずだと思うんですけども、4、5、6、7の。

(石渡委員) 4、5、6って。

(磯部委員) 失礼、参考2ですね。

(石渡委員) 参考3は載らないですよ、これだけいっぱいあるけれども。

(磯部委員) 載らないんですたっけ。

(福本企画課長) これはそうです。

(磯部委員) そうか。

(石渡委員) せっかくこれだけあるのに。

(福本企画課長) 載らないといえますか、参考3は部会の皆さんと、あと部会に属していない皆さんからいただいた意見が全て載っておりますので、カルテに最終的に載るのは磯部部会長のほうから説明があった資料4のほうにまとまっているということになります。

(磯部委員) これは、でも、全部ですよ。だからこの中の一部が載るんです。全部が載らないわけではないです。

(石渡委員) 一部載るといのは、どこに載るかは何か……

(磯部委員) 一部載るが、資料4の。

(石渡委員) ですよ。ですからまだ落とされたのが何個かあるから、それは載せたほうがいいんじゃないかという意見です。

(磯部委員) そうですか。では、それは具体的に言っていたかかないと。

(石渡委員) 例えば、資料2の、資料2ってこの厚いものですけども、その131に載っている歩行禁煙防止事業というのがあります。いわゆる事業カルテのこの分厚いほうですね。ここの131、例えば、歩行禁煙とありますよね。

ここのところで私のほうで質問したのが、駅前で啓発活動をしているけれども、ポイ捨てが減っているかどうか、その辺の実績的、要は、「たばこの吸殻がどんどん減っているかどうかをちゃんとチェックしているの？」という質問をしました。

(福本企画課長) 参考3の33ページ。

(石渡委員) 33/49だよ。

(福本企画課長) はい。

(石渡委員) こちら(資料2)のほうですよ。

(福本企画課長) はい、33。

(石渡委員) こちら(参考3)のほうは、今日机上で配られているのでちょっとやっていませんので、ごめんなさい。資料2のほうで話しています。

これに関しては、ごみが途中ちょっと増減が有るけれども、最後の年は減っているよといった感じで書かれていますので、こう言った感じのものはカルテのほうにも載せて、ちゃんとこの事業は(成果を検証して)やっているよというのを載せてもいいのではないかなと私は思ったんですけどもね。

議論的には、進行管理部会のほうでは、もうほとんど担当部署のほうから返事が来ているので問題にならなかったと思うんですけども、ただ、結果的にこういったふうに各担当部署が

きちんとやっているよというのがわかるような記録として残したほうがと。結局、参考3というのは、この後どこにも目に触れないですよ、市民には。

(出石会長) もちろん全部は載せられないと思うんです、やはり。

(石渡委員) ただ、そういったさっきの、委員さんからの質問に対して、担当部署のほうから「こういうふうにやっています。」と云うカルテの表面では書き切れない補足的なことを書かれている回答が多々あるんですよ。ですから、そういうものに関しては載せたほうがいいのではないかと思います。

(出石会長) 部会のほうはどうですか。部会はそれなりに絞ってきたわけですけども、もちろん。それに対して、やはりそれなりに市が対応してきていることは評価もできる。これは乗せたほうがいいので、いい項目があるのでということなんですけれども。

(磯部委員) おっしゃるとおりだと思います。実は、だからこの格好になったのが、今回この格好で出てくるものというのは見ていないので、見たのはあくまで、この形式でしか見ていないんですよ。

(石渡委員) うん、いいと思います。ただ、そこのところでも先ほど、参考3だと何ページですか、今の。

(福本企画課長) 33ページです。

(石渡委員) 33ページ。これは見ているんですよ。

(磯部委員) これは見ました、はい。そうですね。

(石渡委員) するとこの33/49、ここの一番上に書いてあるのが、ちょっと私の質問なんですけれども、それに対してちゃんとこうやって減っているよというような感じの記載が出ている。だから、委員さんとしてはそんなに議論する必要がないような感じでさっと通ってしまっていると思うんですけれども。

(磯部委員) 実を言いますと、この歩行喫煙防止事業に関しては、どちらかというとかたくな姿勢でお互いコミュニケーションをしました。それは何かといいますと、年間12回啓発活動をするというのを全くしていない。最終年度に関しては、12回の数値目標に関して2回か3回しかしていないんですよ。それで、だめだろうと言ったら、結局、実施場所や時間帯を工夫するなどして実施し、事業の目標自体は達成できているものと評価しましたと。この数字というものはこの言葉の中に入っているんだろうなということで一応終わりにしたんですけども、強いて所管課に言うとしたら、この数字をもって達成できているものと評価したという書き方をさせていただくと、そのほうがベターですね。

(石渡委員) 何か最終年度でぐっと減っているんですね。それもちょっとと思うんですけども、そこはよく事業の内容を知りませんので。

(磯部委員) これをちょっと、この括弧を最終的なこの実施場所や時間帯を工夫するなどして実施し、このように減ったから事業の目標自体は達成できていると、こう書いてもらうといいですね。

(出石会長) こちらの資料4のほうの裏に載せる部分はあるわけですね、今の。

(磯部委員) 今、ですから言葉だけで数字は入っていない形で、目標自体は達成している。量が減るという意味で。

ちょっと事務局に質問が、これは(案)と書いてあるのは、今日ここの審議会で承認ということで(案)が取れるのでしょうか。

(福本企画課長) そういうことです。

(磯部委員) でしたら、今、前向きな意見に関しては修正は可能ですか。

(福本企画課長) 前向きかどうかは別にしましても、基本的には、いわゆるこの親会のほうでもって最終的には市長に報告となりますので、こちらの結果ということです。

(磯部委員) でしたら、今の歩行喫煙に関しては、この数字を入れて、目標は達成したと考えるというふうな書き方にしていきたいなと思います。

(出石会長) だとしたら、今のは正に細かく見ていただいたのは進行管理部会で、かつ各委員が見られてきたところについて、要はこの資料4と参考資料3の中で全部がもちろん、厚さが違うだけでわかるわけですが、入っていない部分について、例えば今のでいくと歩行喫煙防止事業については、この資料4のほうの7/10をもう少し書き加えるという形でいいと思うんですが、他にも多分出てくると思うんですね。時間の関係もありますけれども、そういう事項があったら、ここでご指摘を今いただいたほうがいいと思うんです。ただ、全部になってしまうと大変なんですけれども。あるいは、どうしましょうか、後で出しますか。

(磯部委員) 一応、進行管理部会としてはかなり一生懸命やっていますので、その大きな齟齬はないはずなので、あと先ほど申しましたように、例えば参加人数を記載しますというような回答は、最終的な文言では見ていないわけなんです。というところにはちょっと無理がありますね。

(出石会長) そうですね。ここではわからないんですよ。

(磯部委員) ある意味、これを見せていただかないと完全にはわからないところがあります。これというのは、カルテそのものの最終版です。

(出石会長) そうなんです。これに対しての意見なんですけれども、結果がどうなるかというのわからないので、なのでもしちょっと、少し頑張りますから、他の項目でもこれを入れたほうがいいんじゃないかというのがあれば、今、部会長、部会がいらっしゃいますから、そこで判断をしましょう。

それなりに、でも、それなりにと言ったら怒られてしまいますね、すみません。申し訳ないです。

では、それはもう少し後で承りますから、もう一つ、個別計画のほうがあるんです。個別計画、資料5になりますけれども、個別計画に係る懇話会等で意見聴取したものについての説明も受けてしまって、それでさらにもう一回全体で話をしましょう。

では、こちら、資料5のほうになりますけれども個別、要はこの総計の進行管理部会では見ていなくて、個別の計画で、そちらにある懇話会が見たことですね。そちらについて、事務局から説明をお願いできますか。

(福本企画課長) はい。では、右肩に資料5と書かれている資料です。こちらにつきましては、今、会長がおっしゃったような性格のものです。各所管課のほうに依頼をしまして、進行管理部会の作業同様、進行管理に関する意見の視点というものに基づきまして、意見聴取を実施していただきました。

対象となりました事業は全部で34事業ございますが、このうち20事業に対しまして意見・提案等がございました。

これをまとめたものが資料5なんですけれども、例えばこの1ページ目の最初の生涯学習推進事業、あるいはその下のスポーツ振興事業のところの意見を見ますと、生涯学習推進事業であれば真ん中あたりに「評価をするのであれば、何らかの指標に基づいて行うべき」である、あるいはその下のスポーツ振興事業なんですけど、1行目の最初のところに、「具体的な数値や事業の実施状況についての記述をしてほしい」云々といったようなことが書かれております。こういったように、一部の事業につきましては、妥当な評価をするためには、目標達成状況を具体的な数値や具体的な実施状況で捉えるべきであって、かつ、それをカルテに記載すべきだといったような旨の意見を受けているところです。

これ以外の意見、質問等は、基本的には所管課の自己評価は妥当であるといったような認識の上で、その対象となった事業につきまして今後に向けた意見、要望、提案をするといったような内容がほとんどでございます。

所管課が当該事業を推進していくに当たりまして、こうした意見等をPDCAサイクルの中

で検討していくということがよりよい進行管理につながっていくというふうに考えられますから、個別の審議会におきまして、こうした意見が数多く出ているといったことが推察される所です。

いずれにしましても、担当課の自己評価区分についての判断根拠を問う意見、また具体的な問題点の指摘や提案、方向性を提示する、こういった意見もありまして、担当課による自己評価を補完する機能を果たしているというふうに理解しているところでございます。個々の意見につきましては、資料5をご覧くださいと思います。

なお、先ほどちょっとご説明しましたが、参考3は先ほど申し上げたとおりでございます。参考1の資料につきましては、個別計画の懇話会等で意見聴取する事業に対して、こちらの委員の皆様からいただいたご意見と、それに対する所管課の回答をまとめたものといったことでございます。この資料につきましては、個別計画の懇話会等で意見を聴取する際に参考として使っていただいたといったものでございます。

私のほうからは以上です。

(出石会長) ありがとうございます。

ということは、一応参考1については、個別の懇話会には出されているんですか。

(福本企画課長) はい。

(出石会長) では、やっていきましょかね。こちらのほうを先にやったほうがいいかな。

ただいまの個別計画に係る懇話会等での意見、それに対しての所管の回答についてご確認いただきまして、ご意見等ありましたらお願いしたいと思います。

どちらかという、これから先のことを言っているのが多いですね。

(福本企画課長) そうですね。

(石渡委員) すみません。

(出石会長) はい、どうぞ。

(石渡委員) 参考1のほうの、いわゆるこちらの個別計画のものを相当、委員さんたちがやっていたいただいたほうのところも質問いいですか、今の資料5だけに限りますか。

(出石会長) 一旦、こちらのほうがある意味、他の懇話会で行ってきたものの確認ですから、こちらを先に終わらせて、先ほどに戻ろう。

(石渡委員) はい。

(出石会長) こちらはよろしいですか。ちょっと内容的に先に、ちょっとどちらかという、特に適切というところと、将来的なことを言っている箇所が多いので、あと数値をもって評価

に出せというところについては、今後各セクションが対応してカルテに載せてくるということになると思いますので、それを待ちたいと思います。

それでは、戻りまして資料4と参考の3です。この、正に進行管理部会でチェックしていた部分について、先ほどの話に戻ります。こちらについてももう少し記述したほうがいい等の意見がありましたら、ここを出していただきたいと思います。

はい、どうぞ。

(石渡委員) 参考1、その16ページです。今度は薄いほうのこれですね。

(出石会長) 参考1は、個別計画のほうの総合計画審議会が出したものの。

(石渡委員) 個別計画のほうの進行管理部会さんのほうで検討してくださったものですね。

(出石会長) 分かりました。話が、ごめんなさい私、そちらを終わってしまったつもりでいたんですけども、分かりました。もう一回確認すると、今日ある意味3つ出ていて、3つというか、では最初にさっき石渡委員が出された部分について、もう少し皆さんからあったのはちょっと置いておいて、もうちょっと置いておいて、先ほど私が申し上げたのは、あわせて個別計画については今意見を承ったつもりだったんですが、資料5というのが各懇話会で出てきたものだったんですが、その前提となる参考1がこの総合計画審議会から出された。これについて意見があるということですね。

(石渡委員) はい。

(出石会長) では、どうぞ。

(石渡委員) 16ページですね。一番上、所管課の回答というか、企画課のほうの回答は「担当課に伝えました」という返事なんですけど、これは、その結果というのとはわかっていないんですけども、何かあるでしょうか。いわゆるここは「評価がこれでいいの？」という感じの質問をしているのに対して、普通だと、書きかえましたみたいな返事がよく所管課のほうから来ますけれども、これは「伝えました」で終わってしまっているの、その結果がどうなっているのかを聞いたかったんですけども。

(出石会長) 流れとしては、ここでこの皆さん、メンバーから出されたものを、全て伝えているわけだと思うんですよ。要は個別の懇話会に出さないといけないから。それで、個別の懇話会でこれが出されたときに、これは議論にならなかったんですか。

(福本企画課長) はい、基本的にはそういうことですね。結局、対象となっている事業を個別の懇話会のほうでやる部分と、その個別の懇話会がないところについては総合計画審議会でするといったような形でもって分担をしていますので、基本的には個別の懇話会があるところ

については、個別の懇話会の意見が結果になるということになります。ただ、そこにつきましてもこちらの委員会のほうからぜひ意見をということがございましたので、こういった形でもって所管を通じて各個別の懇話会のほうの審議に使っていただくみたいな形でやっております。

最終的にはその結果が先ほど私が説明をしました資料5の形に出ていっておりますので、何らかの結果があったものはここにということになります。

(石渡委員) ただ、その資料5の7ページ、それが正にこの部分ですね。

(福本企画課長) はい。

(石渡委員) そのところでは、特にこの辺の話というのがされているのか、されていないかわからない。あの項目しか書かれていなかったのも、では反対に、担当課に伝えた後、うまくこちらの子育て会議、そちらのほうで少しは何か話し合われたのか、話し合われていないのか、その辺で返事がない、わからないのでお聞きしています。

(福本企画課長) 企画課のほうでは、各懇話会での細かい議論については正直把握をしておりません。先ほどお話ししました手続きの中で、結果として出てくるものをこちらのほうにいただき、資料5といったような形でまとめているといったことをございます。

(出石会長) 多分、限界のような気がする。今期というか前期というか、今言われたとおり、確かに個別懇話会がその部分を所管していて、しかし我々はやはり全体を見ているから、そこについてもコメントを出したわけではないですか。それに対して、それを扱うのは、企画課を通して担当課に行って、担当課が事務局となって懇話会で議論をする。端的に言うと、企画課は出られるわけではないので、そうすると、これをどう取り扱われたかわからないですね、正直言って。極端に言うと、これを取り扱わなければいけないというのは、私たちは言えないんですよ。なので、多分、次のステップでちょっと考えなければいけないかもしれないですね。新総合計画。次の新しい計画。今年4月から始まった新総合計画での実施計画の進行管理でね。そうは言っても、やはりこの会議のほうが上とは絶対言えないんですけども、やはりそこでどうしても穴があく部分が出ると思うんですね。ここについては今、ここではわからないわけですよ。例えば議論した結果、こんなものはどうでもいいと言って外されたのかもしれないし、逆に言えば、全くノータッチだったのかもしれない。わからないですよ。

(石渡委員) ごめんなさい、それで次の進行管理というか、そのところで何かルール化みたいなものを考えようということをおっしゃったんですか。

(出石会長) ルール化ができるかどうかも含めてです。先ほど磯部部会長からもあった点もあるし、要は新しい総合計画ですから、1からやり方を変えたっていいわけなんです、そこ

で考えてみたらどうかなと思ったんです。だから、次についてはそれでいいんだけど、今回については、これをもう一回戻して、懇話会で議論してとはちょっと言えない。

(石渡委員) 当然、はい。

(出石会長) なので、すみません。答えにこれ以上ならないんだけど。

(石渡委員) 確かに。

(出石会長) では、もとに戻ってよろしいでしょうか。その進行管理部会での部分ですね。資料4と参考3について何か、参考3の中からもう少し資料4、つまりカルテのほうに記載していただきたいという項目があれば、意見として承って部会のほうで答えていただこうと思います。

(石渡委員) ごめんなさい、私ばかりで。これ、ちょっと意見というか、愚痴というか、これの資料4ですね。その215番。215ページと書かれている……

(出石会長) 10ページですね。一番裏です。

(石渡委員) 資料4の一番後ろのページです。

資料4の一番後ろの芝生、これに関して所管課の回答というのが、「根が残っている部分がある」という書き方をしているんですけども、これは枯れている根なんですよね。委員さんのほうには写真つきで送ったんですよ。ちゃんと根が生きているんだったら芽が出るはずが、何も出ていないよと。本当にこの事業いいの？という感じの。それなのに回答は、根が残っているから大丈夫だというような感じの言い方なので、達成できたという言い方が正しいかどうかは私には甚だ疑問というか、不満というか。

(磯部委員) 確かに、現地調査はしていません。

(石渡委員) そこは地元ですから、ちゃんと見ていますけれどもね。

(橋本委員) こういうのを知っていればいいけれども、知らない人が担当したら、根があればいいだろうと言ったら、普通に終わってしまうよね。

(石渡委員) 枯れているんですよ。枯れた根なんです。それが残っているだけだから、芽なんて絶対に生えないですよ。かたい地面だし。

(出石会長) 実際にこの件については正に石渡委員がわかっているからとなるんでしょうけれども、他の件でも同様のことが出たときに、やはり全てを現場といいますか、見るというのは多分それは不可能だし、ある意味これは原課の出してきたことをある意味信頼するしかないんですよ。だから……

(石渡委員) ただ、委員さんは各地元でいろいろ活動されている。その中で、知っているも

のに関してはこうやってここで言っているはずですよ、ある程度。他に関しては、やはりこの事業カルテに書かれている結果を見て、この評価が正しいか正しくないか判断するんでしようけれども。もうちょっとバックグラウンドを知っているのだったら、この評価はあまり良くないというような意見も言っているのではないかなと私は思うんですけどもね。

(木村副会長) おっしゃるとおり、全てのことをちゃんと平等に扱わないとならないという不可能があるから、たまたまでいいと思うんですけども、ここにいらっしゃる委員さんで事実確認をされていらっしゃるって、特にこれはおかしいということがわかっていることについては、改めて確認をしてくださいということをお伝えするというにしておけばよろしいんでないですかね。

例えば、写真があるんだったら写真を事務局にお渡ししておいて、たまたまですが、事実について再確認が必要というご意見が出ていますよということを総合計画審議会のほうからお伝えすると。そこまで言われているのに、いや、根があるから大丈夫だという部分については、腹の中ではいつか見ているよと思ってもいいし、そこまで言うんだったら大丈夫なんだろうというふうに思っているでもいいしというふうにせざるを得ないかなと思います。

(出石会長) どうでしょうかね。それは副会長、どうですか。確かにちょっと、逆に言うと、ここまでまとめてきてこられているから、これをひっくり返すわけではないんですけどもね。

(橋本委員) ただ、こういう話は、また芝生の話は今初めて聞いて、ああ、そうと初めて知ったんだけど、何かこれに近いような話というのは結構あって、我々でもどうやってしていいかわからないのが幾らもあるのよ。だから、結局みんなの意見を聞いて、これはこうなんだけれども、どうなのかなと言うと、みんながいいんじゃないと言うと、ああ、そうと言ってやっているのが現状だよ。そこら辺のところはもう少し何か、今のような形で、いろいろな形でもっと細かく突っ込む必要があるのであれば、もうちょっとこの部会にしても何にしても、委員のあれが少し、何かもうちょっとプラスアルファさせてもらわないと、あくまでも書面上でやっている、その議論だけで終わって、いつも完成させてしまうんだよ。だから、そこら辺はどうなのかなと思って、いつもそれ疑問を持ちながらやっているの、正直言って。だから、言われるとみんな疑問を、クエスチョンマークなんですよ、かなりのものは、現実としてね。

(木村副会長) 今おっしゃっているとおりだと思います。ですから、今までの、ここまで精査なされてこられたことが、基本的に事実を捉えているという前提に立っていいと思うんです。つまり、さっき会長がおっしゃったように、信じるということ前提としたら。ただ、先ほど申し上げたのは、その中でもたまたま事実について知り得る意見に接することがあった

かどうかというところはあるでしょう。ですから、たまたま知り得たことについては改めて確認をしてもらおうということはないでいいとする理由がない。

(橋本委員) うん、それはそうだけれども。

(木村副会長) だから、そこまで全てのことを精査しなければ進行管理はできないという立場に立つ必要は全くないと思うんです。今までのスタンスでやっていくということで、何ら問題はないというふうに思います。

(橋本委員) そうなると、非常にやっている中身のことが何か中途半端で終わっていったまうような、自分で要するに納得できていないものも結構あるんだけど、これはこれでいいのではないと周りで言われれば、それで終わってしまうんだよね。

(磯部委員) 最後の意見のときに言おうと思ったんですけども、いろいろな問題がこの事業の管理にはあって、何かといいますと、事業の規模だとか重要性というものが一切考慮されていないんですよ。ですから、ごみの最終処分場の話も、この校庭の芝とか、もっと簡単なものもきつとあったと思うんですけども、要するに予算がものすごい何十億というものから、予算10万円とか、予算なしなんていうものまでが全部同じように扱われていると。そういう意味で言いますと、一応、私としては、やはり重要度というのがあると思いましたから、進行管理部会として現地調査というのも幾つかのプロジェクトでやりました。それはかなり規模の大きなものに関してやりました。そういう意味で、失礼ながら、ちょっと芝生に関してはかなり優先度としては低かった。

(石渡委員) 私もとにかく、こういった事実がありますよという、それを進行管理部会さんのほうでちょっと認識していただきたいという情報提供としてお送りしているだけですから、これをすごい議題としてというか、大事にしろということではなくて、たまたま私は地元でこういうことの事業に対して知り得たので、お教えし、あの(進行管理部会の)会議に出られませんでしたから。ですから、その会議の中での議論の参考にしてほしいということでお渡ししているということです。ですから、一番最初に愚痴と言ったのはその辺なんですけれども。

(出石会長) 分かりました。ただ、確かに副会長が言われたとおり、事実が見えているものだから、それは再確認をしてくださいと言うのはいいと思うんです。今回のこの件については、ただ、先ほどから出ている、要は、では全てを現場を見るとかという形でやって、事実認定をしなければいけないかという、裁判ではないわけですよ。むしろフラストレーションがたまるのかもしれないけれども、チェックが働いているだけこれは前進なんですよ。もともと外部評価が入っているということ自体が一つあるわけですから、精度をどう高めていくかという

のは今後、次の課題として、たまたま今のは気がついた方がいたからいいけれども、いなかったらわからない話ですものね。だから、それは。

(磯部委員) もう一つ、石渡委員には申し訳ないけれども、要するに、では石渡委員からもらった写真を見たときに、まず私は芝生のことはわからないから、私自身が現場に行くのかというと、そういう気は全く起きなかったと。それで、所管課に聞いて、所管課が大丈夫だと言えば、やはりどうしてもそちらを優先したというのはやむを得なかったと、言い訳としてはそう思っていますけれども。

(出石会長) その原則いいのではないのでしょうか。それであっておせいといたら、それは後々どこかで問題になるわけですから。ただ、今の件は……

(森野委員) 我々の役目は、僕はそれで十分とは言わないけれども、それが限度だと思う。

(出石会長) そうですね、はい。一応そういう形にしましょう。ただ、今の件は一応確認してください、事務局のほうで。

(事務局) はい。

(出石会長) 他はいかがでしょうか。

では、これでももちろん、これからまたさらに事務局というか、市全体でこの進行管理部会及び懇話会から出てきたものを含めてカルテを整理されますので、とりあえずここでは今まで出てきた意見を踏まえて、全総合計画の後期実施計画の進行管理に対する総合計画審議会の意見を出すと、資料4に少し書き加える部分が先ほど1個ありましたか、それで出すということで行きたいというふうに思います。市長に報告いたしますが、それでよろしいでしょうか。

はい、どうぞ。

(渡邊委員) 先ほどの磯部委員の将来の目標設定のあり方のところでちょっと意見があるんですが、それは今出したほうがよろしいですか。

(出石会長) そうですね。とりあえず今の件は終わった形にして、その他に入れて、その他の項目が次、3にその他がありますから、そこでやりましょうか。

(渡邊委員) はい。

(出石会長) では、とりあえずといいますか、それで前期総合計画、後期実施計画の進行管理については市長に報告いたします。

早速、3のその他に入ります。それでは、どうぞ。

(渡邊委員) 先ほど、将来の目標の設定のあり方について、例えばの事例で、私どもが今検討している廃棄物減量等推進審議会のほうの生ごみ施設の「着手している」という表現はどう

なのかというお話が出ました。これについては、個別の話をすれば、平成31年度までには、生ごみの新施設は整備しますというふうになっているので、「着手します」ではなくて「整備します」という表現でもいいんですが、この点については審議会の中で非常に大きくもめておりました、大層なものをつくるのがいいのか、簡易的なものをつくるのがいいのか、それともつukらないのがいいのかというのはよく考えなさいよということで話が出ていて、実はこの中間見直しの答申が5月に出ているんですが、答申の中の付帯意見としても、生ごみ処理に関しては、基本計画の期間内に逗子市に最も適切な処理方法等について引き続き検討することというふうに付帯で出ております。これが答申となっています。こういった背景がある中で「着手」という形というのは、多分担当課のほうで、これがぎりぎりの表現というか、もう整備すると言ってしまったら整備する、基本計画に書いてあるんでそうでしょうと言えそうなんです、ちょっとそこまで言い切れないが何かやるんですよというようなところというのは入れておかないとまずいというようなところが、今この4年後、4年後はもう近いんだから、そんなことを言っていないでやれよと言われるのはそのとおりなんですけれども、引き続き検討していかなければいけないということがあったときに、それはやはり当初計画ではこう書いてあるんだから、整備すると書いてあるんで整備すると書きなさいよという考え方でいくのか、あるいはそういった方針はこれから、これも我々もこのままで放っておくつもりはないので、これからどんどん整理をしていく形になるんですけれども、そういったものができ上がってきた時点で目標として挙げるべきなのか、そのあたりについてはどのような考え方でやるべきなんでしょうか。

(磯部委員) 一般市民が見たときにわかるかどうかということをも1つの重要な観点にしたと思うんです。だから、「着手している」というのはやはりわからない。それで、もう一つ、おっしゃっているように、これから先に関してはいろいろなことがあるでしょう。いろいろな検討がなされるでしょう。検討した結果、つukらないのがよいということになったら、「事業見直し」という評価がたしかあったはずなんです。だから、私がつくるんだったら、これは着工しているなり何なり、はっきりしたことを書いた上で、状況が検討結果が必要ないということになったら、その年次に検討結果は必要ないことになったので事業は中止しました。それで何の問題もなく市民としては見て、なるほどと思うと思います。要は市民がわかることが大事なのです。

(出石会長) では、どうぞ。

(木村副会長) 磯部委員がおっしゃっていることも、私も同感です。ちょっと時間のかかる

ものとか、その前に評価って何のためにあるのかという共通認識が必要で、評価は別によかったとか悪かったとか何をやっているんだとかと言うためにあるのではなくて、今後の軌道修正なり今後のスピードアップなりという、そういうコントロールをどうするかと、そのPDCAといえば、アクションをどうとるかということのために評価をするものですから、磯部委員のおっしゃるような理解でいいと思うんですね。

その評価するという、される側のほうがそういう認識でいらっしゃるかどうかが結構、鍵で、セクションのほうではどうしてもいい評価、自己評価を出したいというふうに思ってしまうのは、それでよしとかあしとかというふうに判定されているという認識が強いからそうになってしまうと思うんです。そうではなくて、今後のためにどうするかということをご自分でチェックをしているんだというふうなことを職員の方にぜひ強く認識していただくような庁内での理解を進めるということに、ぜひ注力していただきたいなということを思います。

もう一つは、長期間かかるような事業については、今、渡邊委員がおっしゃったような解釈の仕方も確かにあるし、一方で磯部委員がおっしゃるように、それが分かりにくいということもあります。私の経験で言うと、役所はどうしても年度単位でしか物を考えていないところがあって、今年度中にここまでやるとかいう非常に井なんですよね。事業は実際、毎月なり3カ月なり半期なり、事業のスケジュールというものがあるわけですから、それを考えれば、例えば適地選定をすることが終了しているかどうか、あるいは基本設計ができるかというような、実際にやるとなれば、そのために幾つかのスケジュールを切ってやるわけなので、着手することのためにも、例えば方針が明確になるのかどうかというふうに、そこまでの段階を目標として立てることは当然できるわけですので、着手されていけばいいという話ではなくて、もう少し細分化して、スケジュールリングをするということをやったり役所の中の一つの癖としてつくってもらいたい。

というのは、こういう行政評価という類いのことをやるときに本当にいらいらするんですけども、3年なり4年なり5年のときに、1年に矢印、棒を引いて、ここまで何、ここまで何と、1年刻みでやるんですよね。1年刻みでやるという行動に我々はなれていないので、通常1年なんてことでやらないわけですよね。今年度中にやりますという回答をついついしてしまうという癖もある。それを3カ月後にやりますとかいうふうに小刻みにスケジュールリングするという癖がどうしてもない。そういうことが多分これから新総合計画の評価をするに当たっては、もう少しスケジュールを小刻みに見るということの癖もつけていかないと、渡邊委員がおっしゃっているようなことと磯部委員がおっしゃっていることの両方の意見を生かしたよ

うな形での進行管理はなかなか難しいのではないかなというふうに思います。

以上です。

(出石会長) いずれにしても、それを含めて、とにかくせつかく新しい総合計画ができたので、その進行管理も全く新しくてもいいと思うんです。ただ、ちょっと事務局に確認なんですけれども、挙がっているそのリーディング事業に書かれている言葉というのは、あれはもう総合計画の中身なんですか。

(福本企画課長) そうですね、はい。

(出石会長) ということは、議決されている部分なのね。

(福本企画課長) はい、そうです。

(出石会長) そうすると、あの言葉は変えられないから、今、副会長が言ったとおり、その言葉の中を詳細化するんですかね。

ちょっと余談なんですけれども、大学なんかでも今、評価でルーブリックといって、細かく言葉で、ここまで言ったらちょっとあれかな。すみませんね。普通、SとかAとか、優、良、可とかつけるんです。そのときに、今それを細かくどういう状態になっていたら優なんだよと書くんですよ。書くのがだんだん主流になってきているんです。

今、同じようなことで、こういう役所の中のもの、では、そのある事業のどこまで行ったら今年度はどこまでという、その、より具体的に書けるようになるのが本当はいいんだと、それを、難しい話ですけれども、リーディング事業に挙がっているものについても、あそこのわずか1行で書かれているものを、より年度計画の中で、さらに今、私も年度と言っていましたね。その中で詳細化できることを、私も次期どうなっているか分かりませんが、審議委員の中で考えてもらえればいいかなと思いますので、これを議事録にも残して伝えたい。

渡邊委員からの提起はいいですか、それで。

(渡邊委員) 了解しました。

(出石会長) その他事項で、皆さんから何かありますか。なければ、先ほど申しましたこの総合計画の現任期では今日が最後になりますので、皆さんから一言ずつこの期の感想、あるいは要望、あるいは不満、いろいろあるかと思いますが、一言ずつコメントをいただきたいと思います。

それでは、依田委員から順に、こちらから回っていきたいと思いますので。

(依田委員) 特に言うことはないんですけれども、わからなくなってしまったのは、企画課のスタンス。なぜかという、これは言下に伝えてありますとあるでしょう。伝えてあります

というのは企画課の仕事なのか。言って、何か返ってきて、1つの仕事だと思うんですけども、そのスタンスでちょっと。役所の仕事の中ですから、私はわからない。それだけです。

(出石会長) 回答はなしということで、意見で。すみません。

では、磯部委員、お願いします。

(磯部委員) 4年間、私なりに一生懸命頑張った総合計画、この計画には誇りを持っています。以上です。

(出石会長) ありがとうございます。

では、森野委員お願いします。

(森野委員) 今、部会長の関係で言われたんですけども、ちょっと私なりにお時間を借りて、私なりにちょっと4年間感じたことを申し上げたいと思うんですが、まず初めに、この4年間、我々進行管理部会として与えられた役割は、今、部会長が言ったように、全うできたのではないかと思っております。これは、部会の方々は皆さんが有能な方ばかりで、進行管理部会そのものは常に活発な意見交換ができて、また審議会、出石会長以下皆さんのご指導のおかげでできたと思って、改めて感謝申し上げます。

ただ、ちょっと小言になってしまうんですが、終わってみればそれなりの達成感はあるんですけども、満足感といえましょうか、充実感は正直余り感じていないです。正に、よく皆さんゴルフでいうところの霧の濃い中でゴルフを一生懸命やったような感じがします。

その理由として、私は学校区の一市民で今回、総合計画審議会に応募して参加したんですが、結果的には進行管理部会というくくりに入って、ほとんど実施計画の進捗状況の自己評価の査定方法の審議、そんなので終わってしまった感じがします。

これは私の勝手な思いかもしれないですけども、私は当初、この審議会に入るときに、新たな個別計画から参加でき、実施計画も必要に応じて、変更だとか追加、削減だとか、こういうことに関与できると。ところが、やはり計画の根幹は言ってくれるなど、予算には関わってくれるなどというような縛りがあって、少々がっかりいたしました。ただし、この総合計画審議会をスタートしたときは、いわゆる総論とか基本構想については非常にそれなりに内容も濃かったし、私なりに頑張ったんですが。ただ、そうは言いながら、個別計画には関与と言いましたが、事業によっては、これはもう専門家の方でないといけない面というのがありますので、それは本当に私自身がそれだけ能力があるかといったら決してそうではないので。ただ、市民目線で関与できるものはいろいろあったのではないかと、あるのではないかと手挙げた次第なんです。

もちろん、この計画そのものは各方面の先達がいろいろと知恵を絞ってつくられた計画なので、否定するつもりは毛頭ありませんが、ただ、計画そのものが割合長期にわたりますので、時代や環境の変化によっては変更等々はあってもよいのではないかという思いで、それが強いせい、やはり結論ありきの結果に終わったようなことで、少々むなしさを感じておりました。

私は、審議会に参加した当初、一番最初の席で生意気なことを言ったのは、市民参加である種のアリバイづくりみたいなことは困るよという発言をしたのは記憶しているんですが、結果的にこれに近いのかなというふうに思っております。

この進行管理部会は、これは先ほどちょっと、P D C Aという話がありますが、やはり非常に大変なことです、さっき霧の中でゴルフと言いましたけれども、我々ができるのはP D C AのCなんですよね。つまり全体の中だと、この計画をつくった事柄がわからないでチェックするというのは大変なことなんです。ですから、結局表現の仕方だとか、先ほどそういう、冒頭に申しあげましたように、その自己評価のあり方を査定するような、そんなようなちょっと捉え方を私はしているんで、非常に苦戦をしました。

幸いに、さっき磯部部会長が言いましたように、皆さん努力されて、それなりにあれを達成したと思うんですが、私はちょっと暴言かもしれませんが、この進行管理そのものは、やはり市長みずからやるべきだと。つまり、P D C AのさっきAを言いました。アクション。レビューですよ。これは我々に権限もなければできないわけです。ですから、そういうチェックはもちろん刺激を与えとか、いろいろ先ほども言いましたように風穴をあけたかもしれないけれども、結果的にはその最後のAが、アクションといいたまうか、レビューをしつかりしないと、これをやった意味がない。意味がないと言ったらちょっと語弊がありますが、そんな感じがしたので、市長がそのものは無理であれば、市議員が分担でやるとか。彼らは権限もあるでしょうし、しかるべき責任というのを背負うから。我々はやはり先ほどもちょっと言いましたけれども、結果を求めるわけですよ。ですから、その計画そのものがどうやって、プロセスも大切なんだけれども、結果を出すかということが我々市民の期待だと思うんですよ。ですから、それをチェックするというのは重要なことなんです、そういう意味では、ちょっと暴言かもしれないけれども、そういう思いがいたしまして。

同時に、したがって次の総合計画審議会の方には、やはり晴れたゴルフ場にできるように、やはりその計画段階がこういうことで計画したんだよということは、あるいは先ほどちょっと出ましたけれども、現場の状況なんていうのは、現場で見なくても、やはりその専門家、こういうことをつくられた人が、こういう状況で適切と事業がわかれば、やはりちょっと素人

考えでも判断できるなど、こういう思いがしましたので、ちょっと余計なことかもしれないけれども、感じたことを申し上げます。

それと、ちょっと最後に、この4年間、総合計画審議会の、部会は別ですけれども、会議で4年間ほとんど発言されない方もかなりいらっしゃった。私も発言は少なかったんですけども、本当に意見がなかったんでしょうか。それとも、例えば2時間という時間限定、その中でしたくてもできなかったよと、こういうことがあったのではないのでしょうか。私は勝手な言い方をすると。もしそういう方がどんどん出れば、また違った情報交換というか、そういう情報収集で、また違ったことも起きたかもしれませんし、これは私個人の判断で申し訳ないです。我々もどちらかというディベートが下手なんですけど、政治家でも論客でもないし、やはりディベートが余り得意でない人が、その時間とかそういうものに追われると、つい発言のチャンスを失ったというようなことがあるのではないかと、これは私の勝手な思いなんですけど、ぜひ次回の総合計画審議会に参考にしていただければいいかなと。

長時間申し上げ、暴言とか失言が、いろいろ言いそうなものがあつたらお許してください。

以上でございます。

(出石会長) ありがとうございます。

では、星野委員をお願いします。

(星野委員) 私は自分の職業的な経歴として、中央の政治とか行政には、直接議員だとか役人だとかということではないんですが、間接的にかなりの時間を関わってきました。したがって、中央のそういった動きや、例えば政策の立案過程や、あるいはその背景、あるいはそれについての審議会、あるいは有識者の何とかこうとかというふうなものにはかなりいろいろ見聞もある、あるいは直接的な接触もあったんですが、地方については最初に自己紹介のとき申したんですが、全く不良市民で、自分の地元あるいは足下のこと、足もとのことにはほとんど関心も持たなかったし見てこなかったんで、今回の4年間というのは非常にいい機会だと思います。私の余り長くないこれから先のことを含めて、いい勉強をさせていただいたと思います。

今、森野委員がおっしゃったり、あるいは磯部部長が話していましたように、部会はたびたび開いて、与えられた仕事はもちろんのこと、それについてのいろいろな議論がかなり行われてきましたね。そういうところで非常に今、彼が申したように忌憚のない話し合いがあつて、こうも言いたい、ああも言いたい、こうもしたい、ああもしたいというふうな、いろいろなことがありました。そういったものは最初、磯部さんが言ったように、次の委員の方たちにボタンタッチというか、意見としてまとめて出そうというふうな手はずも考えているようですし、

多くのことを申し上げる必要はないと思うんですけども、いずれにしても、非常にいい勉強をさせていただいたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

(出石会長) ありがとうございました。

では、松永委員お願いします。

(松永委員) 当初、小学校区の代表委員ということで、抽選をクリアして参加させていただいたんですが、当初2年のところを延長ということで4年。当初、自分としては考えていたのは、例えば懸案な池子の問題点とか、もっと身の回りのことを議論するのかとそういう頭があったんですが、違うレベルの話ということで、それにはそれなりのことについていったつもりなんですけど、あにはからんや、なかなか対応できていないところがありました。今後、自分自身が年齢的に元気で生活できるこれからあと10年、逗子で生活できていければいいと思っています。その中でこの4年間の経験を踏まえていきたいと思っています。

以上です。

(出石会長) ありがとうございました。

では、橋本委員お願いします。

(橋本委員) 今回、進行管理部会ということで、いろいろチェックを具体的にやっている中に参加させてもらって、やってきました。

先ほどちらっと言いましたけれども、非常に、これでいいんだよと言われれば、ああそういうふうなまとめ方。そういうふうにしなくてはいけないんだなということは多少分かりながらやってきました。けど、これをこれから我々のような形で、今度地域の代表として今まで出てきた方が、あくまでただ選ぶときに地域で選んだだけの話で、これからは地域を代表して出てこなくてはいけないことを今、沼間と小坪がスタートしています。皆さんに話しました。誰も手を挙げません。要するに、わからないんですよね。接したこともない。こういう資料ですよと言っても、見たことないみたいな顔をして見ているんだけど、それまでは、先ほど松永さんが言われたように、地域のことがやれることだと思っている人が大部分なんです。ですから、地域のことの話を生懸命みんなしてくるんだけど、僕はそこで違うよとも言わうわけにいかないから、黙ってみんなのを聞いているんだけど、要するに、地域の何かそういうふうに関わったことをここで審議ができるのかなと思って、かなり勘違いして出ていく人がこれからも増えるだろう。この辺のところを今までのことの内容プラスアルファでやっていく中で、もう少し市民レベルのことに、どういう形でわかって伝えていかれるのかなとなると、この4年の、要するに任期の中でやってくれよというのは非常に難しい。これは、地域

でつるし上げになるのではないかなと思っているの。だから、ある意味で選ばれる人がかわいそうだなという気がしないでもない。だから、この審議会の中身がもう少し、もし地域をそういう形で選ぶのであれば、推薦する人、それからその対象者、もう少し経験、多少何々を経験した人とか、何かをやはりしてあげないと、ただ市民レベルのどなたでも手を挙げてという形でやってきたときに、それが非常に、その2年間ずつの4年になりますけれども、難しいのかなと思っています。

いずれにしても、これから我々、自分では今度選ぶ側にちょっと立ってしまったもので、何とも言えないんですけども、これからちょっとこの審議会のこと、それから中身のこと、それからあと、細かいことは委員長が言われたこと、副委員長の言われたこと、そのとおりなので同じ話はしませんが、それに今度プラスアルファ、もう少し何かをわからせてもらえるような仕組みをちょっとつくっていただいて、やはりここに出てきた委員の人がもう少し理解のできるような形で審議に参加できるという形をとっていただかないと市民レベルの話がこれから出てこない。非常にここだけの話を延長戦で話しても、誰ひとりほとんど理解する人は地域でいないだろうと僕は見えています。

そんなことを含めて、これからその辺の改革、改造、これから人選する新年度になりましたので、その辺のところをこれからどう考えて進めていかれるのかなと思って。ただ、今までのような形でぽんぽんと選ばれてしまって果たしていいものかなというのがちょっと僕の頭の中のクエスチョンマークです。

以上です。

(出石会長) ありがとうございます。

では、石渡委員お願いします。

(石渡委員) この会議、初めのころ総合計画というのはどういう感じのものか、「都市マスがどれだけ包含するか？」とか結構わからない言葉が飛び交っていて、本当を言ってしまうと、自分でこの会議の中でお役に立てるのかなとすごく心配していたんですけども、だんだん進んでいく中で総合計画、文学的表現を分かりやすい言葉に直してもらったりとか、事業カルテの進捗管理表のところも書き方、その辺のこともちょっと改善というか、意見が言えて、少しはこの会議に出て役に立ったことがあるのではないかなと評価しております。

以上です。

(出石会長) ありがとうございます。

では、金山委員お願いします。

(金山委員) 実は、もうあと1期、私どもがつくった新しい総合計画の進行管理をやって、それで問題を洗い出して、次の方に引き継ぎたいと、そう考えていたのですが、市の考え方を聞いて残念です。

それから、よかったことは、今までも市といろいろな関わりでお手伝いをしてきたのですが、この4年間、特に進行管理部会の方々と深い内容のお話ができたと、私の知らない世界というか、外側から見ていたことと違う評価があること、考え方の多様性があるということを改めて認識しました。また、これだけ多様な意見をどうまとめていくのか興味がありました。

この前の選挙の広報を見ても、市の職員は給料が高いからもっと下げろとか、人が多過ぎるとか。私は個別計画から関わってきましたので、市の職員と一緒に仕事をやっていると、市の職員はいかに大変かが判りました。この人達は本当に見ているのか、ただ、そう思い込んでいるだけではないかと感じたところです。

そしてもう一つ評価ということについて、一口に評価といってもいろいろな評価がある。今は亡くなったと思いますが、学校に入ると集団知能検査というのをやっていたことがあります。あれは知能をはかるものではない。もともとはアメリカが第一次世界大戦に参戦するとき、命令を理解できない兵士が入隊されては困る。怪しげな者は確実に落とせばよい。優秀な者が落ちても、具合が悪い、命令に従えない者が一発撃てば大変なことになるので、それを確実に排除する。そういう検査で、それを何を間違えたのか、日本の学者が知能検査と称しておかしなことを始めてしまった。一方、大学の入学試験はどうか、優秀な者は全員確実に入学させたい、間違っても具合が悪い者が入学してもそれは仕方がない、基本的に考え方が違う。

行政評価あるいは進行管理に対する基本的な考え方がないまま、仕事をしてきたように感じる。4年経って進行管理の目的は何かということ、次に生かそうというところで幕が降りてしまった、という状態で、本当に残念と言えば残念ですが、大変いい勉強をしました。ありがとうございました。

(出石会長) ありがとうございました。

では、稲葉委員お願いします。

(稲葉委員) 子ども・子育て委員のほうから、1年半ぐらい前に、もうでき上がった中に突然入ってきてしまったので、日々、毎回、資料を目で追うのが精いっぱいな状況で何も意見も出せずにいましたが、諸先輩方のもとても活発なご意見とか言葉がすごく勉強になりました。ありがとうございました。お世話になりました。

(出石会長) ありがとうございました。

久保委員をお願いします。

(久保委員) 私は、障害者の福祉計画の委員会のほうに、そこからこちらの総合審に参加させていただきまして、正直、本当に発言することがよくわからなかったんですね。こういう仕組みとか言葉とかということに全然なれていないものですから、本当に障害者の親としてずっと福祉のところではばかり生きてきたものですから。

それで今思うことは、この4年間でとにかく発言はなかなかできなかったけれども、参加させていただいたことで、障害を持っている人も、障害者の部分の福祉課のところしか知らなかったんですが、市という総合計画の中ではいろいろなことが審議されて、いろいろなことが各課によって提案されているものもあったりとか、皆さんが考えたものがあるんだということが分かりました。それで、本当にこの障害のところしか知らなかった私が、やはりその4年間の間にたまたま子どもがグループホームに入ったりとかで余裕ができたので、地域のほうに、ここに書いてあるような見守りの活動に参加したりとか、それから自主防災でたまたま自治会で輪番で回ってきて防災部長になってしまったものですから、それでやはり防災訓練を地域で団地内でやったりとか、いろいろなことがここで重なって、障害のところしか知らなかったけれども、それだけではやはりこれからいけないのではないかなと。

私はこれから何かといたら、やはり親の会のところの代表で来ていますから、そこに戻ったときに、やはり逗子の中でもいろいろなことが審議されて、障害の部分のところで生きている親たちなんですよ。けど、そうではないということをややはり伝えていって、いざという、3.11もありましたし、そういうときに、やはり地域が大事だということ、それから自分たちでできることは率先していろいろなところに関わっていく。そういうことが自分のためであり、自分の子どもたちのためであるんだよということが、この会議に出席させていただいてすごく思って、これからはまた戻ったときにそういうものを若い親たちに伝えていきたいなというふうに思っています。ありがとうございました。

(出石会長) ありがとうございました。

では、岩橋委員をお願いします。

(岩橋委員) 私も2年前から、高齢者のほうの委員会のほうから来て、皆さんの活発な意見交換の中でちょっと驚いた次第で、自分自身も福祉関係といっても、一般サラリーマンを50歳ちょっと過ぎまでやって、ちょっと自分の妻が病気等になった中で、人のためになるような福祉的な部分の仕事をしたという部分で、ただ、福祉といってもやはり障害だけではなく、児童だけでもなく、障害だけでもなく、いろいろな意味での、独居であれ、何らかの形の困っ

ている人たちを、自分自身も困っているのかもしれないけれどもという部分に目を向けられて、今回よかったなと思うのは、60年間、逗子市民でいながら余り関心が持てなかったものが、ちょっとぼんと背中を押してもらって、いろいろな意見を持たれている方と、意見交換までにはいかないんですが、先ほど一部発言が出ないよというのは、出さないわけではないんですけども、ちょっと内容的に違う部分等あるので。ただ、あと、小さなまち、逗子なんですけれども、やはりさらによくするためには諸外国のいい点とかも取り入れるとかも取り入れるとかで、ロータリー式の直線で行くとか、やはりオランダではないですけども、自転車とバイクとトラムと車と歩行者が共存するような町づくりとかという、小さなまちなのになぜか信号が多くてぎすぎすしている部分も、一人一人が何か気持ち起こせば、ぎすぎす感が外れるんじゃないかなとは思いました。

以上です。

(出石会長) ありがとうございます。

では、谷委員。

(谷委員) 私はまちづくり推進会議から前任の野口委員と石井委員の後任で、短い間でしたが、役を果たせたか大変不安なんですけど、新総合計画ができ上がったというのは大変うれしいことでもあります。

前任委員からは意見が多かったと思いますが、私は概ね意見を出した後の参加だったので、多く発言せず私としては楽でした。

前任者たちが言いたかったことは、まちづくり基本計画を自分たちがつくって、それで実際にやって、要するにPDAがあって、それでCに行っているというあたりを、すごくこだわっているところがあったと思います。当然時代も変わってきていますし、そういうことと離れていた方のチェックは有効だと思いますし、反省としては、まちづくり基本計画は自分たちでつくったという思いや一生懸命やっているということが、いつの間にか自分たちの内輪の話になっていたということがあったのかとも思います。ですから、こういう時代に沿った新総合計画でチェックの仕組みができたということは、これからの逗子にとってもいいことなのかなと思いますし、皆さんのご苦勞は本当に大変だったと思います。特に進行管理部会の皆さんは膨大な作業量で大変なご苦勞をされたと思います。感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

(出石会長) ありがとうございます。

では、渡邊委員をお願いします。

(渡邊委員) 私は廃棄物の減量化のほうでやっているんですけども、廃棄物の減量化の委員会の中でも、実はその部分に関しては違う課の管轄だから関係ないというか、このところで話し合っても仕方がないということが幾つか実際議論の中で出てきていました。その中で、私の理解は、今回の総合計画というのは大分横に串を張っていくようなイメージがあるように思っています。先日、まちづくりネットワーク会議というのに今度は減量化の審議会委員として出てくれということで、これは、今度はこの基本計画に沿って基幹計画の委員さんが一堂に会して、それぞれが持っている横のつながりの部分の問題点というのを話し合おうというものなのかどうか知らないんですけども、そういうようなことをやっていこうと、金山委員もいらっしやっただんですけども、そういうようなことをやっていこうというふうな話が出てきています。

今まで松永委員さんとか森野委員さんもおっしゃっていたんですけども、多分そういった会議の中で、地域から見て各計画はどういうものになっているのかみたいなのは、今度はそういうところでガシガシと、いよいよ総合計画の枠組みに入り込んでやれるような体制になりつつあるのかな、ないのかなというところなのかなというふうに私は感じています。

ただ、そのネットワーク会議そのものも、逆にそういう話し合いができなければ意味はないよと言いつつ、みんなそうやって言うんですけども、では、これを具体的に議題として何をどういうふうにやっていこうかといったところはまだまだ、いやそれは決まっていなくても、とりあえずみんなですべて集まってみようよというところが前回のところだったので、どうなっていくのかわからないんですけども、そういう意味では着実に今回の新総合計画の枠組みというのは少しずつ動こうとして、まだまだ産みの苦しみがあると思うんですけども、動こうとしているというところでは、すごく大変な作業がまだ待っているかと思うんですけども、先ほど皆さんが言われていたような横からつながるといふか、下から上がるというか、そういうようなつながりのやり方の先行きのつくり方みたいなものは、またやられていくのではないのかなという期待をしています。

というところで、以上で。

(出石会長) ありがとうございます。

では、柳沢委員お願いします。

(柳沢委員) 私はこのような会議は幾つかおつき合いしているんですけども、この会議の一番の特徴は、やはり市民力が高いということだと思えますよね。これだけ市民の方が自分の意見を言う会議は多分他の都市ではあり得ないくらい、比率も実は市民の方がほとんどで、

外人部隊は私と木村さんぐらいしかいないという、そういう意味では非常に特徴的な会議で、非常に成功したと私は思います。

そういう意味で、そういう会議でおつき合いできて大変よかったですと思いますが、内容的に1点だけ気がかりなのは、私はこの逗子とは非常にコンパクトで、小さくてとてもいい魅力的なまちだと思うんですね。この魅力的な逗子がさらに継続するためには、やはり外の血をしっかりと入れるというのが一番大事。一番と言うと語弊がありますね。非常に大事だと思う。

そういう意味で、私はいろいろなところで若い人が住めるまちにしましょうということをしていろいろな角度から申し上げたんですが、どうもそれはいま一つ政治的な問題も含んでいて、やや生煮えだったというのが私の反省点です。

以上です。

(出石会長) ありがとうございます。

では、副会長お願いします。

(木村副会長) お疲れさまでした。

4年前というのは先ほど少し話題になりましたけれども、どうなるかことかという、議論が進まないという何回かを経験してきて、かなりそれは、その時間があつたので比較的その中で本音というか、それぞれの認識されていらっしゃる基本の部分のやりとりをすることができたので、その後がスムーズとは申しませんが、今、柳沢委員もおっしゃったように、積極的な議論ができるという、つまり前進するための議論ができるという状況ができ上がったのかなと思います。なので、どうなることかと当時は思っていましたけれども、そういう時期があつてよかったのかなというふうにも思っています。

1点だけ。これからどちらかという立案というよりも進行管理というところにウエートが置かれてくるわけで、進行管理ということは非常に苦勞なさつて、とにかく計画しておりますけれども、やはり難しいということはありますよね。単純に言えば、難しい。難しいというのは、大変だということ以上に、やはりどういう仕組みで評価すればいいのかと、どういうルールで評価すればいいのかというようなことをかなり研究的にやつて、仕組みそのものをつくることに力を割かないとできないような気がするんです。

例えば、防災という観点での政策というものをどう評価するかといいますけれども、これで足りるというふうに言われていても、いざ発災してみないと、それで足りたかどうかなんかわからないですが、発災するのを期待してそれを評価するということは考えてはいけないことですし、難しいですね。

それから、先ほど出た話題で、かなり長期を要するような政策事業の場合、それをどういふふうに評価するのかわかるのは難しい。そういう、なかなか一律には評価できないわけです。ですので、誰がどういふ評価をするかということもそうですし、どれぐらいの精度で評価するかということもそうですし、何をどう評価するかということもそうですし、もう一度言いますと、研究をしないとイケないジャンルでして、私の知る限りでは、その評価の仕組みをかなり満足のいく状態に持ってきている役所って、やはりまだないですよ。ですので、これは総合計画審議会がというよりも、やはり市役所として、あるいはその事務局と申しますか企画課として、評価ということにウエートのかかる期間を迎える以上は、この進行管理の仕組み、ルールをどうするかということについて、詳細の研究をぜひ同時並行的になさりながら、評価に携わってくださる方々がその辺においてストレスを感じなくて、ただ大変さだけで大変だ、大変だというふうに進められるような状況をつくる必要があるというふうに思います。

以上です。お疲れさまでした。

(出石会長) ありがとうございます。

せっかくですから、事務局から一言ずつもらいましょうかね。長い方もいますが、どうぞ1人ずつ事務局からも。

(和田経営企画部長) すみません、それでは私から。この4年間ということで、本当に今それぞれ各委員の皆様方からいろいろな思いを聞かせていただきまして、本当に大変だったんだろうかと、また、本当に改めて感謝を申し上げたいなと思っています。

私は、昨年、今年の3月まで福祉部におりました。福祉部は5本の計画を個別計画に。それは総合計画がどうであろうと、法定の計画がほとんどだったので、これはもうつくらなくてはいけないという中で、そこの計画をつくり、そして進行管理を個別のところで行っていくわけですが、それが今回、総合計画と一体的に策定する。それから、一体的な進行管理をするということで、そこをつなぐというのは非常に大変だったというのは、福祉部にいた中ではちょっと感じていることになります。

ただ、今、皆様のお話を聞いた限りで、何とかつなげることができてよかったのかなと思っています。ただ、進行管理とは本当に難しく、今、実は個々の私ども管理職については業績評価ということで、年間5つのテーマを設定しまして、それについて到達点、目標を決めて、それで評価を受けるといふ仕組みをやっていきます。いつも話題になるのが目標の設定、やはり同じですね。これが永遠のテーマみたいなものでして、今回もその目標の設定については市長が直接登板しまして、設定の吟味をしているということで、これが相当な時間がかかっ

てようやく終わったところです。7月に入って終わったということは、もう三月過ぎてしまったわけなんです、それぐらい大変だったというところがありました。

今回いろいろお話しいただいている中で、評価の仕組みとは本当にしっかりやらなければいけないと思いますが、市長の意図するところは、評価ももちろん大切なんです、まずは市民の皆様に見える化を図りたいというのが、まず最初の一步として一番大事だということは常々聞かされていることだと思います。そういった意味で、総合計画と個別計画の一体的評価の仕組みもそうなんです、ネットワーク会議というものを試行的に今回、今年度からやっている。それから、市民による事務事業の点検というのもやってございます。このやり方については、今年やってみてまたさらに改善等ができたらと思っているところでございますので、市長の言葉を使わせていただきますと、市民によるガバナンスということを狙っているというところでございます。いずれにしましても、今後、今まで以上にこの総合計画の進行管理については、総合的かつ合理的な進行管理をしていきたいと思っております。

そういった意味で、皆様方にはこれまで本当に改めて感謝を申し上げるとともに、基本的には次の任期から委員構成を大幅に変えて新しくスタートするということになっております。本当に退任される委員の皆様におかれましては、ありがとうございました。退任後、いろいろ私どものおつき合いとしての立場が変わろうかと思いますが、これまでと変わらずにお力を、あるいはご理解を、ご協力をいただければと思っております。また、再任される委員の方も中にはいらっしゃると思いますので、その方につきましては、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

いずれにしましても、皆様方の本当にご熱心な姿勢を忘れることなく、これからも総合計画を推進していきたいと思っております。ありがとうございました。

(芳垣経営企画部次長) 今、部長のほうからありましたように、市民によるガバナンスということ市長がよく申し上げているところです。私は、先ほど4月から経営企画部の次長ということで申し上げたんですが、その前の3年間、経営企画部におりまして、別の担当をしていたものですから、直接この総合計画の策定過程あるいは進行管理等に関わってこなかったということがございます。

ただ、本当に評価という意味、市民の皆さんによる評価という意味では、先ほど何人かの委員の方々が、やはりこの評価のあり方といいますか、捉え方も人によって違いますし、それは実は我々職員の側もそうです。我々は企画をして実行してと、PDCAのPとかDとか、その辺のところはこれまでずっとやってきたんですが、なかなかCという部分での捉え方というのが、これは自分の反省も踏まえてということになりますけれども、そこはやはりこれまで

ちんとできてこなかったというか、そういう意識が足りなかったというところはあるんだろうなというふうに思っています。

そうした中で、市民の皆様によるガバナンスということで、脇で私もそれを横目で見ながら、どういうふうにやっていくのかな、これは大変だよなと正直思っていたんですけども、進行管理部会の皆様に相当な時間、労力をおかけいただいて、一つの形はできたんだろうというふうに思っております。いろいろとまだ課題があるということでご提言をいただいた部分がございますので、それは私ども、しっかり受けとめさせていただいて、また、先ほどございましたけれども、その調査・研究といいますか、そのこのところは一緒にまた形としてつくっていききたいというふうに思っています。

(福本企画課長) まずはじめに、ありがとうございますということが、私が皆さんにお伝えしたい全てです。

皆さんのほうから一言ずついただきまして、いろいろな思いといいますか感想といいますか、受けとめ方を私なりにしておりました。最後に木村副会長のほうから今後に向けての宿題ということで、ある意味エールをいただいたというふうに思っております。正におっしゃるとおりでして、今回の新しい総合計画が市長がかなりこだわりを持った部分でありますけれども、総合計画、基幹計画、個別計画と、こういった三層構造でもって計画体系全体をつくり上げ、それぞれの懇話会等がうまく機能分担し合いながら全体を管理していくんだといったような発想があるわけです。そういった前提の上で、この評価の仕組みを今後つくっていかなければいけないといったところです。

先ほど渡邊委員のほうからもちょっとございましたが、まちづくりネットワーク会議、これは実は、この言葉自体、多くの皆さんは初めてかなと思うんですけども、実は議論いただきましたこの新しい総合計画の中に出ているんですね。このときに何という言葉だったかというところ、市民の横断的なネットワーク会議という、これ（総合計画の冊子）は見えますか。こんな図があったのを覚えていますか。総合計画の中では市民の横断的なネットワーク会議というふうに表現をしていたんですが、それを今回、実際に始めるに当たりまして、まちづくりネットワーク会議というふうに正式な名称をつけて、実は先日、第1回目を終えたところです。そういった意味では、少しずつこの新しい総合計画の仕組みづくりが整うように、どんどん前に進もうというところですので、皆さん、これからもお力をお貸しいただけたらなというところですね。

あと、これも木村副会長のほうから、PDCAはAのためのCなんだといったようなご発言

が最初のほうにあったんですけれども、実は私、昔々、行政評価の担当をしていたことがありまして、そのときにやはり同じことを言っていたんです。よく他の市町からの議員さんが視察にいらっしやっていたんですけれども、そのときに私が一番最初に、「行政評価の結果を悪く使わないでくれ」といったことをいつも議員の皆さんにお話ししていました。というのは、行政評価を真面目にすると、できませんでしたという評価がついてしまったりするんです。そのことを議員さんは、行政のだらしなさみたいなところで取り上げてしまったりするんですね。そうすると何が起きるかといいますと、行政評価が死ぬんです、最終的には。つまり、そういった結果を残さなくなる。単なる作文の、要するに書類づくりが毎年ルーチンワークとして行われていくということになりまして、やっている作業が何の意味も持たなくなるということです。AのためのCだということを、行政だけではなくて、ここにいる皆さんも含め、市民の方皆さんも含め、ではどうしようかというのをみんなで考えていけるような文化・土壌、そういったものができ上がっていけばいいのかなと、つくっていかなくてはいけないのかなというふうに思ったところです。そういった意味では、久保委員を初めとして何人かの委員さんが言われていましたけれども、ここでの経験というのを総合計画審議会の場を離れたとしましても、自分が何をすればいいのかなとか、何ができるのかなといったことをお持ち帰りいただけたのかなということが非常にある意味うれしかったことの一つでもあります。

私は皆さんの話を伺って、そんなことを思いました。どうもありがとうございました。

(仁科主幹) 私は、この事務局の中では、最初から最後までずっとおりました事務局の一員でございます。そういう意味では、皆さんの感想をある意味感慨深くうかがっておりました。そういうお気持ちでいらしたんだなというふうな思いもあったり、また、先ほど福本も申しましたように、これからもそういう形で市政のほうに関わっていただけるのかなというような期待があったりとか、本当にとてもうれしく聞いておりました。

ただ、一方で、先ほど渡邊委員のほうからもありましたように、まちづくりネットワーク会議が始まっているように、新しいものがどんどん一方で進んできています。新しい総合計画に基づいた事業というのも各課のほうでも着手されてきているので、少しずつ一步一步、皆さんがつくっていただいた総合計画に沿って、本年度から逗子市が進み始めたというのは実感しております。

一方で、先ほど副会長のほうからありましたように、今後卒業論文のようにいただけるというふうに聞いております進行管理についてのご意見なんです、進行管理が難しいという副会長のご意見、本当にそう思っています。4年間ずっとやってきても、やはりどうすべきだった

のかというのをずっと悩んでおりました。ですので、やはり今後いかにストレスのない進行管理の仕組みというものを研究していきたいというふうに考えています。本当に、どうもありがとうございました。

(山道主事) 今までありがとうございました。私は社会人になって1年目ですぐに企画課に入りまして、今ちょうど働いて1年と3カ月経つのですけれども、入ってすぐ総合計画審議会の開催になったときにすごく緊張しておりました、自分の親、もしくは祖父くらいの年齢の方たちが委員でしたので、すごく緊張していたのを覚えています。

それで、総合計画審議会の委員さんがすごくいいなと思うのは2つありまして、まず1つは、行政の職員にすごく友好的で、優しいなと感じることが多いということです。ふだんの業務をしていると、行政に対し、あまりよく思っていない人もいますし、「すぐたらい回しにして」など、言われてしまうことがありますけれども、比較的この委員さん方は、こちらに対して優しい言葉を投げかけてくれることもありますし、こちらの事情も察してくださるようなこともありまして、すごくいい委員さん方のいる審議会で良かったなと思いました。

2つ目は、すごく意欲があるというか、市民参加が活発だなというふうに思いました。初めての審議会が、ここでしたので、審議会とはこういうものなのかなと思っていたんですけども、働いていくうちに、他の自治体の方と話をしたときに、「うちは全く市民参加していないよ」という話もあったりしました。そういった話を聞いていると、市民参加をしている中でも、特に逗子市は非常に意欲があるような市民の方が多いまちなんだなと思いました。そういった方々に、信頼されて一緒にやっていけるように、あと40年近く働くとしますので、私としてもレベルアップして、いい関係でやっていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(出石会長) こちらこそ、よろしく申し上げます。看とってもらえる。

最後に一言、時間も来ていますので、皆さんからおっしゃられたことで、ほとんど私の言いたいことも全ておさまっていたと思います。それから、なかなか本当に饒舌な皆様で、あるいは結構ウイットに富んだ発言もあってよかったなと思っていましたが、一言申し上げます。

おわびを申し上げたいと思います。先ほどありました意見が出ないというのは、やはり私の進行の問題が第一であるわけですね。そのことに限らず、思い返せば、私は会長であり議長なわけですが、普通、議長というのは仕切り役なんですけれども、どちらかという発言をずっとしていました。それで中には、時には、特に前半戦は熱く言い合いをしておりましてですね。

正直、私自身、実はすごく重たい会議で、結構憂鬱だったんです、当初のころは、この会自

体が。他都市にない、本当にこれは唯一の会議ですね。そういう意味では、そういう中で4年近くかけてこれに結論が出たと。皆さん、非常に理想が高く、進行管理の話は最後まで大分出ていましたけれども、私はこの計画自体、よくこんな計画ができたなど私は思っています。基幹計画と個別計画をつなぎ合わせるのもそうだし、まちづくり基本計画を一体化できるなどは私は最初は、とてもではないけれども、思っておりませんでした。どこかで潰れるんじゃないかというふうな、私が責任をとるのかなとかと思っていたんですけれどもね。そういう意味では、これも実現できました。これだけの活発な意見が出ていること自体も本当に素晴らしいと思うんですけれども、それに尽きるかなと。それを最後まで支えていただいて、何とか2期4年ですか、皆さんとともに、多くの方は4年やっていただきましたし、そこでここまで片づいたのは、私はひとえに皆様のおかげですし、正しく評価すべきだと思うんです。職員も頑張っていたと思います。

今後、計画をつくって終わりではないというのは皆さんが言ったとおりですので、これからいかに逗子をよくしていくかというのは、私もそうだし、皆さんに課せられた使命だと思います。委員でなくても同じことだと思いますので、今後とも逗子をよくしていきたい、それに、私も微力ですが、できていくように頑張っていきたいと思います。

では、私の言葉は以上といたします。

以上で終わりますけれども、事務局から何かありますか。

(福本企画課長) ありがとうございます。皆さんの素晴らしいご発言があったのに、ちょっと事務的な連絡で申し訳ないんですが、おかげさまをもちまして、この総合計画の進行管理、そして、新しい総合計画の策定といったような取り組みを滞りなく進めてこれたなど本当に思っています。ありがとうございます。

今日のこの会議なんですけど、これまで同様、会議録を作成しなければなりません。任期が皆様は7月27日までということですので、恐らく、当然といえますが、皆様のお手元に会議録の案が届くのがその任期後になってしまうと思います。ただ、申し訳ないんですが、やはり公開される会議録ですので、皆様にもきちんとご確認をいただきたいと思いますので、任期は終わっていますが、届きました場合にはよろしくご確認のほどお願いしたいと思います。

事務的な連絡は以上になります。

(出石会長) 確認なんですけれども、最後の感想は議事としますか。議事でいいと思っているんですけれども、要は議事録に残すかという話。

(磯部委員) 私は残したほうがいいと思います。

(出石会長) はい。では、議事録、それもあげてください。

(福本企画課長) はい。

(出石会長) それでは、以上をもちまして、この任期も満了ということで、最後の会議になりました。皆さん、どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。(拍手)